

NUMOの取組み

—今後の対応方針—

1. 組織運営
2. 対話活動
3. 技術開発

2014年8月7日

原子力発電環境整備機構 (NUMO)

1. 組織運営：

⇒組織目標の明確化とガバナンスの改善

(1) 経営理念、行動指針の策定・公表

○ NUMOのミッションを再確認し、業務運営の拠り所を確立。

(2) 中期事業目標とその達成に向けた具体的なアクションプランの策定

○ 今後、国において改定される「最終処分計画」に合わせて策定・公表。

(3) 評議員会の評価機能の強化と情報公開

○ NUMOによる自己評価を基に、事業ごとに評価。

○ 評価書、議事録等を公開。

(4) 組織体制の見直し（7月1日～）

○ 「企画部」を「事業計画部」へ拡充・改組。（計画立案機能、評価機能の強化のため。）

○ 「広報部」と「立地部」を統合し、「地域交流部」を設置。（広報活動と立地活動の有機的な連携強化のため。）

2. 対話活動：

⇒原点に立ち返って一からやり直し

NUMOの役職員自らが直接国民・住民の方々の前へ

(1) 今年度においては、全国30か所でシンポジウムを実施 (最終的には全都道府県で開催予定)

○NUMOの役職員が説明し、質問等に対応。地域交流部の職員のみならず、技術部の職員も安全性等について説明、質問に回答。

○シンポジウムに合わせて、近隣の町で、模型展示車「ジオ・ミライ号」を使った理解促進活動の実施。

○その他、地層処分に関する指導案や教材等の作成に取り組む先生方のグループ、地域において地層処分の勉強を行うグループに対する支援等を実施。

(2) 今後、国が行う「科学的な適地選定」に合わせて、地域 の方々との対話等を実施予定

○各部横断的な地域別のタスクフォースを編成。

○説明会・講演会、関連施設の見学会、地域における広報媒体の活用等を検討中。

3. 技術開発：

⇒地層処分関連技術開発におけるリーダーシップの発揮と現場を活用した技術人材の育成

(1) リーダーシップの発揮

- 基盤的研究機関に対する具体的な技術開発ニーズの提示、研究成果の体系的整理等、技術開発全体のマネジメントを実施。
- 包括的な技術報告書を定期的に取りまとめ。（「2015年度包括的技術報告書」の策定を準備中。）

(2) 現場を活用した技術人材の育成

- 内外の関連機関との共同研究の実施等、研究開発の現場への技術者派遣を通じた「現場に強い」技術能力の向上。
- 国民・住民との対話活動の現場を経験させることによるコミュニケーション能力の向上。

(参考) シンポジウム



(概要説明)



(パネルディスカッション)

既実施地域：

仙台市、札幌市、富山市、高松市、広島市、
福岡市、津市、神戸市、徳島市

今後の開催予定：

大分市（8/10）をはじめ、全国で開催予定

トークサロン



(ジオ・ミライ号)



(ジオ・ミライ号車内展示)



(車内3Dシアター上映)



(ベントナイト実験)

既実施地域：

名取市、北見市、帯広市、苫小牧市、高岡市、
坂出市、東広島市、久留米市、北九州市、
四日市市、松阪市、豊岡市、阿南市

今後の開催予定：

順次、全国で開催を予定